

「原子カムラ」の境界を越えるためのコミュニケーション・フィールドの試行  
第7回フォーラム研究会  
議事録

日時：平成26年7月21日（月） 13：00～16：00

場所：パブリック・アウトリーチ本部事務所

出席者：15名（順不同・敬称略）

木村（PONPO）、足立（元気ネット）、植木（元気ネット）、円満字（PONPO）、大石（PONPO）、釜山（元気ネット）、神崎（PONPO）、鬼沢（元気ネット）、久保（PONPO）、渋谷（元気ネット）、竹中（PONPO）、中岡（元気ネット）、丸山（PONPO）、諸葛（PONPO）、第1期フォーラム参加者

配布資料

- F7-0. 議事次第
- F7-1. 第6回フォーラム研究会議事録案
- F7-2. 第4回フォーラムに関するアンケート集計結果（主に自由記述）
- F7-3. 第4回フォーラム反省会メモ
- F7-4. 第5回フォーラムスケジュール表（運営者版）
- F7-5. 第5回フォーラムスケジュール表（配布資料版）
- F7-6. 話し合いのルール・ブレインストーミングの進め方
- F7-7. グループワークの進め方
- F7-8. 第5回フォーラムに関するアンケート
- F7-9. 模造紙の使い方
- F7-10. フォーラムインタビューご協力をお願い
- F7-11. フォーラム終了後アンケート（首都圏住民参加者用）
- F7-12. フォーラム終了後アンケート（原子力学会員参加者用）

議題

- 0. 前回議事録確認
- 1. 第4回フォーラムの振り返り
- 2. 第5回フォーラムについて
- 3. その他

※議論の詳細については、逐語録に記録されている。

## 0. 前回議事録確認（配布資料 F7-1）

木村氏より、資料 F7-1 に基づき、前回の議論の内容が確認された。

## 1. 第 4 回フォーラムの振り返り（配布資料 F7-2、F7-3）

各自が第 4 回フォーラムに関する資料（F7-2、F7-3）に目を通した後、第 4 回フォーラムの振り返りを行った。主な意見を以下に示す。

### 【運営について】

- ・ 「グループワークの進め方」を有効活用している参加者がいた。マニュアルをきちんと整備し、ルールに則って話し合いを進めることの大切さを改めて感じた。
- ・ 必要・不要の両方の立場に立って考えることに対する肯定の意見が多い。良い手法だったと思う。
- ・ フォーラムが始まる前に、参加者が席についた段階で役割を確認し、特にファシリテーターには段取りを説明したところ、グループワークがスムーズに進行した。
- ・ 2 グループ体制は、もう一方のグループの発表だけを聞けばいいというメリットもあるが、1 グループの人数が多いことによる弊害も多い（サブファシリテーターの負担増、一部の参加者が台頭するなど）。
- ・ 3 人のサブファシリテーターが固まって座っていたが、1 人は反対側に座り、全体を見ているべきだったのではないか。
- ・ 参加者の特徴を捉え、臨機応変に対応することの大切さを実感した。
- ・ ファシリテーションやグループワークに慣れてきた参加者も多い。サブファシリテーターが口うるさく時間管理をしないほうがいいのかもかもしれない。

### 【参加者について】

- ・ 参加者の、「自分たちでグループワークをこのように進めたい」という意思を感じた。参加者同士がどの程度親しくなるとこのような気持ちが出てくるのか、把握するのは難しいが、うまくルールに取り入れられたらと思う。
- ・ 一部の参加者の間では、信頼関係が生まれているように感じた。
- ・ 市民の意見が、かなり深いところまで到達していると感じた。
- ・ 役割があると積極的に参加するが、役割がないとやや消極的になる様子が見られた。
- ・ フォーラムの目的を誤解されている方がいるように見受けられる。（アンケートの回答から）

- ・ 「付箋に書く」「グルーピングする」「見える化する」を「作業」と感じ、その結果、「作業に追われ話し合いの時間が足りない」と感じている参加者が多いのではないか。  
→手法に慣れてくると、「作業」と感じやすくなるのかもしれない。  
→単純に時間・回数を増やせばいいという問題でもない。昨年度の参加者からも「時間が足りない」との声はあったが、フォーラム全体の時間を延ばすことには否定的であった。また、回数を増やすと、参加希望者が減少するおそれがある。  
→時間を長くしても、結局「足りない」と思うかもしれない。
- ・ 「コミュニケーションのステップ」の「異なることを受け入れる」ことができたという専門家の人数が減っていることが気になる。  
→詳細はインタビューで伺ってみたい。

## 2. 第5回フォーラムについて（配布資料 F7-4～F7-12）

木村氏より、資料 F7-4 に基づき、第5回フォーラムのプログラム案が紹介された。第5回特有の注意点は以下の通り。

- ・ 第5回フォーラムは、外部評価委員、資金提供関係者が視察される可能性があることが確認された。
- ・ 第5回フォーラム終了直後のアンケート（F7-8）には、「シンポジウムにおいて、紹介してほしいこと」を記入する欄を設ける。第1期でも同様の欄を設けた。参加者の端的な感想が得られると期待される。
- ・ 最後の振り返りのコメントは、1人1分とする。前半30秒で第5回の感想を、後半30秒で全5回を通しての感想を話してもらおう。
- ・ フォーラムの最後に、インタビュー、シンポジウム、フォーラム終了後アンケートについて説明する。
  - インタビューの日程調整表（F7-10）は、可能ならば当日中に回収する。
  - フォーラム終了後アンケート（F7-11、F7-12）は、当日は書かないように参加者に注意する。（家に帰って、落ち着いてから記入してもらおう）
- ・ 終了後に懇親会を開催する。段取りなどが確認された。
- ・ 懇親会において、第1期フォーラム参加者が運営スタッフに加わっていたことを紹介することになった。第1期フォーラム参加者の取り組み（フォーラム終了後も、参加者同士で自主的に連絡を取り合い、同窓会の企画もある）なども簡単に紹介する。

続いて、木村氏より、資料 F7-7 に基づき、第 5 回フォーラムのグループワークの進め方の案が紹介された。木村氏の案がおおむねそのまま採用されたが、細かい変更点もあった。以下に決定事項を記す。

- ・ テーマは、投票で決定した「地球温暖化と私たちの暮らしの関わりとは？」である。
- ・ 第 3 回以前同様、3 グループで話し合う。
- ・ グループワークは 120 分（休憩 10 分を含む）1 回のみとする。「話し合う時間が短い」との要望に応える。全体共有の時間は設けるが、以前のように質問への回答づくりのグループワークは行わない。（その場での質疑応答のみ）
- ・ 前半は「地球温暖化が進むと、私たちは何が困るのか？」、後半は「地球温暖化の防止のために、自分の暮らしの中ですべきこと・できること・やってみようと思うことは？」というサブテーマで話し合う。
  - 前半のサブテーマ「私たちは～」であるが、前半も後半も、話し合いの際はルールに則り「私は」という一人称で意見を出す。
  - 前半の冒頭は、地球温暖化が起きているという前提で意見を書き出してもらう。その後の自由討論の際は、「地球温暖化は起きていない」という前提で話し合っても構わない。
  - ファシリテーターは参加者が務める。前半と後半で交代する。
- ・ 発表は各班持ち時間 10 分とする。発表者は 2 名で、前半について 3 分で、後半について 3 分で発表してもらう。残り時間は質疑応答にあてる。
- ・ 環境省作成のパンフレット（「STOP THE 温暖化 2012」）の URL を、事前に参加者にメールでお知らせする。また、当日も資料として配布する。（その他の資料も検討したが、分かりやすいがゆえに意見誘導のおそれがある、などの理由から、見送られた）

### 3. その他

- ・ 第 5 回フォーラムは 7 月 26 日（土）に開催する。運営者は 11 時に集合する。

以上